

平成28年度第2回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 平成28年9月28日（水）9時30分～12時00分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

- (1) 委員 赤間委員、市原委員、江口委員、江澤委員、大嶋委員、尾出委員、片岡委員、加藤（強）委員、加藤（弘）委員、菊次委員、工藤委員、小出委員、立野委員、田中委員、津田委員、角田委員、鶴岡委員、長友委員、縫部委員、畑委員、布施委員、松野委員、真鍋委員、山内委員、山谷委員
- (2) 事務局 石原保健福祉センター所長、金澤社協区事務所長、稲葉くらし安心室長、三浦地域づくり支援室長、正司高齢障害支援課長補佐、田中高齢障害支援課主査、黒木地域福祉課主査、佐野健康課主査、鈴木社協区事務所主査補、丹下高齢障害支援課主任主事、仁保地域福祉課主事

4 議 題

- (1) 熊本地震派遣活動報告について
(2) テーマ別グループワークについて

5 議事の概要

- (1) 熊本地震派遣活動報告について
ア 保健師の視点として活動した体験談を、高塚健康課主査より報告した。
イ 事務職の視点として活動した体験談を、明妻社会援護第二課主査より報告した。
- (2) テーマ別グループワークについて
グループワークの討議内容について鈴木社協区事務所主査補より説明し、テーマ別グループワークを実施した。

6 会議経過

- (1) 開会（事務局）
(2) 開会挨拶（津田委員長）
(3) 議事

○委員長

それでは、議題1 熊本地震派遣報告について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

今月9月1日は、防災の日でもあり、防災意識を高めることを目的に、毎年各地で防災訓練などが実施され、若葉区支え合いのまち推進計画においても、災害時に避難できる体制づくりとして、多くの地区部会エリアで、取り組んでいただいている。

また、首都圏直下型地震が懸念されていることから、実際に熊本地震の被災地へ、当保健福祉センターの保健師及び事務職員が派遣され、救護活動等行ったので、その体験談を保健師の視点と事務職の視点で報告を行いたい。

○委員長

始めに、若葉保健福祉センター健康課 高塚主査より報告をお願いしたい。

(高塚主査報告)

○委員長

次に、若葉保健福祉センター社会援護課第二課 明妻主査より報告をお願いしたい。

(明妻主査報告)

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

避難所の中では、仮設の診療所はあったか、熊本市内の一般の医療機関は機能していたか。
また、地域住民の被災者の方はどういうような動きをしていたか。

○高塚主査

救護所設置については、自分の行った避難所にはなかった。大きな怪我などしていた方があまりいなかったと聞いている。一般の診療所については早い時期に復活していたようだ。5月の初旬には開設し、常備薬、心の心配などについては、かかりつけの医院にかかられたという状況を聞いている。

熊本市は、最初は市として避難所を開設していたが、自主的に開設している所も点在していた。福祉的な大学では自主的に避難所を開き、学生がボランティアをしている所もあった。

○明妻主査

診療所設置は、自分の行った避難所にもなかったようだ。ただ、益城町に行ったときには、避難所前に赤十字社の救護所があったので、被害状況により対応方法が異なると思う。

熊本市南区では、14の避難所のうち2ヵ所は市が運営していたが、他の避難所は、福祉避難所という形で、介護系の方が福祉の面で避難が必要な方を自主的に受け入れしていた。

地域住民の方は、地震直後は誰もパニックになり、早く避難しなくてはとなるので、落ち着いてというのはその場になってもわからないこともあり、平常時に訓練をどれだけしているかということにつけると思う。

○委員

二人の報告を聞いて、避難所運営は大変だったと思う。まず、ライフラインとして水道は止まったのか。一般に避難所は劣悪環境ということで、近づくなどと思っている住民は多いと思う。

また、運営に関して行政サイドで実施するという市民感覚があるがどうか。今、話を聞くと、誰もが被災者であるため、住民の皆さんも避難所運営を協力していってもらうようピーアールも必要と考える。

○明妻主査

益城町は、地震発生直後は水道が止まっていたが、自分が行った5月初旬は、ライフラインは止まっていなかった。仮設トイレ8基は設置されていたが、その後撤去された。

避難所にとって水道がとまるというのは、まさに劣悪な環境になる。排泄物の汲み取り車も定期的にくるわけではなく垂れ流しとなり、トイレは気を失うくらいきつい状態になり、病気の問題にもなる。避難所はトイレの問題が一番ということを考えたほうがよいと考える。

施設のトイレが少なくても、仮設トイレは早めに撤去できる形が望ましいと考える。

○委員長

他に何か質問等あれば、発言をお願いしたい。

(質問なし)

○委員長

今回の派遣を通じて、千葉市も計画とかマニュアルとか見直しされていると思う。

避難所に入った方の名簿を早期に作成し、要望とか問題点を把握することが大事といった話があったので、千葉市においてもマニュアル手順書が修正されていくことが大事と考える。

なお、本日は若葉区避難所運営委員会会長の皆様がお見えになっており、本当はご質問とかも望ましいと思うが、時間の関係もあり、各地区の避難所運営委員会でご紹介していただければと考える。

○委員長

それでは、次に議題（２）テーマ別グループワークについて、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局

テーマ別グループワークの進め方について、事務局から説明

グループ発表

第１班グループテーマ「気軽に過ごせる居場所づくり」

○委員

気軽に過ごせる居場所づくりというテーマが、イコールいきいきサロンの開催として位置付けている。孤独死を防止するために極力サロンに参加してもらうというのがメインとなる。

問題点として、小学校の空き教室を利用して開催している所が実際にあり、小学生は参加しているが、一般の高齢者の参加が少ない。どうして少ないかを議論したが、なぜかわからない。

何回かやっているうちに、固定化して増えていくのではということであった。

また、一会場に係員として地区部会の方が平均６～７名参加しており、参加者と係員が同じ場合もあるなど、地区部会の方がいろいろ参加しているため、疲弊しなければと思うので工夫していくことが大事だと思う。

また、活動していても、だんだん人数が減ってきてしまっている。毎回マンネリ化している状況があるため、内容に工夫も大事。

会場までの距離によって増減がある。高齢者は皆が車を使用できるわけでない。小規模、自治会で拠点を立ててやる努力してやらないと増えない。決定的にこれをすればサロンへの参加が増えるといった結論までは出なかった。

第２班グループテーマ「地域でできる介護予防・健康づくり」

○委員

ラジオ体操、屋内でのシニアリーダー体操、健康講座をやりましょうというのが目標となっているが、円滑な推進の妨げとなっているのは場所がないということである。

人も足りないというのもあるので、情報発信力、周知徹底がうまくいかないというのもあった。市のホームページ等に掲載しても、なかなか見てもらえないなど効果的な広報をどうしたらという話しもあった。

今後の活動につなげていくためにも、活動している方の人員確保はどうしたらいいかという議論があったが、いい案がなかなか出なかった。

これからさらに推進するには、いろいろなイベントや行事に参加していくことであり、あの時居たよね、というように顔の見える関係づくりや顔見知りを増やすことが大事である。

第3班グループテーマ「活動団体同士の連携・交流」

○委員

地区部会の中にはいろいろな活動委員会があるが、大きな組織づくりの位置づけにある自治会の方のバックアップがないとつながらないと考える。自治会にとっては毎年役員が変わり、現状の自治会の活動で手一杯であり、福祉まで手がまわらないといった現状がある。

しかし、地区部会としては、出来るだけ自治会の方のバックアップがないと出来ない。

各自治会の方は民生委員、ボランティア、福祉施設等があるので連携を取っていただく。

同じく、地区部会も連携をしていく。連携していく方法として、地域ケア会議がある。

会議では、民生委員、福祉団体、ボランティアをそれぞれの立場で意見を交換し、連携がうまくいっている。

地区部会と自治会が連携しているところもあったり、地区部会と連携しなくてもうまくいっているところもあるが、地域にもどして、各自治会単位でケア会議をしていければ、活動が推進出来るのではと考える。

地区部会の位置づけ、役割として、すみわけがうまくいくというわけではなく、地区部会ではこういう問題がありますよ、自治会はこういう問題をやりますよといった総合的な報告会をやり、意思疎通してこういう情報の共有化ができればよいと考える。

また、介護保険制度が地方にくるが、地域で見守るという中で地区部会の役割、自治会の役割をどうやっていくかという連携がますます大事であると考えます。

第4班グループテーマ「防犯活動の実施」

○委員

円滑な推進につながる要素としては、組織がしっかりしていることが大事であり、自治会単位でやれば組織が円滑に繋がると考える。

また、防犯意識の高揚、仲間意識の向上、参加することに無理強いをしない、楽しみながらパトロールをすることが大事と考える。自治会と地区部会との関係も重要な位置づけと考える。

妨げる要素としては、パトロールメンバーの高齢化、若い人で仕事をもっている人は時間がない、女性だけの家庭、一人暮らしなど、メンバーが集まらない要素と考える。

また、大きな樹木、空き家、パトロールしにくい場所が防犯活動の妨げの要素と考える。

更に推進につなげるための視点としては、うまくいっているところの成果をわかりやすく広報する。例えば、町内の安心、安全につながる要素として、防犯灯の不具合を直し、明るい町になった、ゴミの不法投棄がなくなったなど良い事例を広げる。パトロールをすることで、安心が深まったということが大事と考える。

参加者への慰労等を年一回するなどして、ゆるく長く続けるのがさらなる推進につながる要素と考える。

第5班グループテーマ「防災・減災活動の実施」

○委員

円滑な推進につながる要素としては、市での大きな災害に対して、対策マニュアルなどが現在策定されていると聞いているので、地区部会や自治会へ決まった内容を早く伝えてほしい。

また、その他の災害として起きた事案に対し、地域での役割、目標を設定、明確にすることが大事と考える。

円滑な推進を妨げる要素としては、人と人とのつながりが昔と比べて薄いため、情報が共有化されていない。もっとつながるようにしたいと考える。また、地区部会と自治会の連携が大事と考える。

さらに推進へつなげる視点として、防災訓練などは常時から準備が必要である。

災害実績の把握として、過去に若葉区にどのような災害があったのかということを生かすことが大事である。

また、会社、企業、老健施設、地元施設との協定などにより防災・減災活動を拡大していくことが大事と考える。

○委員長

推進につなげる話があり一番感じたことは、いろいろな取組項目をしっかりと実行されるための基本的な要素は、地区部会と自治会との連携、情報交換が普段からされていることが大事と思う。日常的に話しが出来ていると、自治会がやること、地区部会がやることが、必然的に出てくるものだと考える。今後において、地区部会長は、地区部会エリアにある自治会の方と連携を深めることが重要ではないかと感じた。

○委員長

他になれば、本日の議題はこれで終了する。

○事務局

本日の会議の議事要旨は約1か月後、市のホームページに掲載を予定している。

また、推進協だより第24号の発行は、11月を予定。でき次第、委員の皆様には、送付させていただきます。

次の開催日程は、12月の中旬頃を予定。日程が決まったら、委員の皆様には改めて案内をさせていただきます。

以上で、第2回若葉区支え合いのまち推進協議会を終了する。